

清水の子



『未来を創造する
清水の子の育成』

◇学びを広げる子
◇思いやりあふれる子
◇たくましさみなぎる子

TEL 33-7285

Eメール simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp

第 8 号 令和元年 11月27日発行



ネットトラブルのおそろしさ

校長 松井 操人

大阪の小学6年生の児童が行方不明になり、栃木県の成人男性がその児童に対する誘拐・監禁の疑いで逮捕されるという事件がニュースをにぎわせています。この事件の特徴的なところは、被害児童は、加害者の男性に力づくで連れ去られたのではなく、知らない人についていったのでもなく、スマートフォンを使い、SNSを通じて知り合ってまだ会ったこともない男性にSNSのやりとりで誘い出され、自分の足で加害者のもとへ向かったというものです。



被害者の低年齢化が進んでいます

スマートフォン等からインターネットを通じたやりとりの中で、さまざまなトラブルに巻き込まれる事例は後を絶ちません。「ネットトラブル」はおとなでも被害に遭うことがあり、スマホの所持率が高くなる中高生のトラブル事案はかなり前から問題視されていました。しかし、当然のことながら「低年齢化」の流れがあり、近年は小学生の被害が増えているといえます。

新聞で読んだ「子どもの被害者が使った『SNS』」の種類は、最多が「ツイッター」、そして「ひま部」「LINE」「マリンチャット」「ツイキャス」と続くそうです。私などはツイッターとLINEぐらいしか知らず、ネットの世界の深さとスピードには驚くばかりです。



清水小の子どもたちにも「使用の低年齢化」

本校では、開成中学校と協力して、10月に「携帯電話・スマートフォン等の利用について」という保護者を対象としたアンケート調査を行いました。ご協力ありがとうございました。集計結果や分析についてはまだ作業中で、年内には保護者の皆様に報告したいと考えておりますが、小学校のデータを見ていて驚いたことのひとつが「使用児童の低年齢化」です。使用や所持が多いのは高学年だけかと予想していましたが、低学年であっても高学年と同じぐらいの割合の児童が使っていることがわかりました。使用目的はさまざまで、通話や検索ツール、ゲームとしての使用が中心の児童が多いのかもしれませんが、今後、SNSの使用もどんどん低年齢化していくことが予想されます。



「使わせない」のではなく、「正しく使わせる」ことが大切

先の新聞記事によると、被害者の中でフィルタリングを「使っていない」と回答した割合は88%とありました。フィルタリングの使用とともに、「スマホを使う場所や時間のルール化」など、家庭のきまりを設け、それをしっかり守らせることが大切です。「使用は1時間まで」と合わせて、子どもを守るための私たちおとなの責任の重さを痛感いたします。